（様式１）

令和４年度　学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立外手小学校
校長名	由良　隆

１　本校の学力に関する状況

（１）墨田区学習状況調査結果から

成　　果	課　　題
・５１観点中、全国平均正答率より上回ったものが４３観点であり、全体の８４．３％であった。（昨年度８６．３％） ・全国平均正答率より上回った４３観点中、５ポイント以上プラスは２７観点であり、全体の５２．９％であった。（昨年度５８．８％）	・全国平均正答率を下回ったものが７観点であり、全体の１３．７％であった。 ・目標値より低かったものが４観点であり、全体の７．８％であった。 ・目標値より低かった観点が昨年度より減少したものの、全体的には昨年度より下降気味である。

（２）意識調査結果から

成　　果	課　　題
・ほぼ全学年において、自己肯定感の項目で平均値と同等あるいは上回っている。自己肯定感が高まってきていると捉えられる。	・ひとつの学年において自己肯定感が平均値を下回っている。一人一人の児童の状況把握を徹底し、改善策を講じていく。 ・学級風土の項目で平均値より低い学年・学級が見られる。改善が求められる。

（３）墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成　　果	課　　題
・墨田区ふりかえりシートや東京ベーシックドリルを活用していることが、基礎学力の向上に繋がっている。 ・タブレット端末を活用した授業が児童の学習意欲を高めている。	・高学年になるにつれて、児童の学力差が開く傾向が見られる。個に応じた指導の工夫と授業改善が求められる。 ・タブレット端末を効果的に活用できるよう授業改善が求められる。

２　本年度の学力向上に関する主な取組

（１）知識と技能、思考力・判断力・表現力等のバランス

知識については、低学年･中学年の段階において、読み・書き･計算などの基礎的･基本的なことを確実に習得させるために、ふりかえりシートや東京ベーシックドリル等を用いた学習段階ごとのプリント学習による定着学習で「つまずき」の早期把握をする。低学年においては、多層指導モデル(MIM)を取り入れながら言語能力の把握と向上を図っていく。また反復学習（漢字･計算･用語など）を重視した指導を徹底する。

技能について、算数では、授業で使用する辞書･地図等の学習資料やコンパス･分度器･三角定規等の学習用具の適正な使い方を身に付けさせていく。理科では、観察･実験を重視し、操作の習得が必要となる器具については、タブレット端末を含めＩＣＴも活用して個々の児童に正しい操作技能を身に付けさせていく。また、他の教科ついても、タブレット端末を含めＩＣＴを効果的に活用することで技能を高めていく。

思考力・判断力・表現力については、「仮説（予想・理由）を設定する場面」や「観察・実験・調査の結果を考察する場面」を意図的・計画的に設定するなどの指導の充実を図る。また、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成のために､低学年･中学年の国語において音読･暗唱･漢字の読み書きなど言語指導を充実させる。

このように、知識･や技能、思考力･判断力･表現力等のバランスを考え、指導の極端な偏りの無いようそれぞれの関連をおさえ計画的に指導を行い、児童に確かな学力を定着させる。この過程を大切にすることで、主体的に学習に取り組む態度が養われる。

そして、身に付いた確かな知識と技能を積極的に活用し、小学校低学年･中学年･高学年・中学校の思考力･判断力･表現力等を確実に育み、児童一人一人に主体的に学習に取り組む態度と確かな学力を身に付けさせていく。

（２）家庭との連携を図った学習環境の確立

児童一人一人の学習状況調査結果に基づき、個人面談・保護者会等の機会の活用を図り、学校･家庭の相互理解を通してよりよい学習習慣を確立する。多くの児童は、学校の授業時間以外に学年に応じた時間の学習をしているが､基礎的･基本的な学習習慣の確立ができていない児童もいるので、学級担任･学年主任等を中心に、あらゆる機会を生かして指導助言を重ねていき、家庭学習の習慣化・継続化を推進していく。管理職からは、全体保護者会･学校便り等を通して適正な家庭学習の確立について啓発していく。

（３）タブレット端末を中心とするＩＣＴ機器の活用

タブレット端末を中心とするＩＣＴ機器を活用した授業は､児童の関心･意欲･態度等を喚起し、よく分かる授業の実現につながる。タブレット端末等のＩＣＴ機器は日常的に使用することで、児童が視聴するだけの受動的な学びだけでなく、ＩＣＴ機器を活用してまとめたり、発表したりする能動的な学びが展開できると考えている。活用においては、教科における個別の知識・技能の定着を図るとともに、身に付けたことをどう使うかといった思考力・判断力・表現力の資質・能力も育成していく。「ＩＣＴを使うことが目的」となるのではなく、よりよく「ＩＣＴを手段として使う」ようにすることで学びに向かう力、人間性等も育成し、学力に結びつけていく。

３　「令和５年度　墨田区学習状況調査」における目標

- 全国平均正答率に照らした、観点別平均正答率５ポイントのプラスを５１観点中、３６観点以上（全体の７０％以上）にする。
- 目標値に対しては、５１観点中、４８観点以上が上回るようにする。
- 経年比較で全学年がプラス成長となるようにし、正答率を全体的に向上させる。